令和５年度

鶴見乳幼児福祉センター保育園　自己評価

今年度の取り組みとして目標を「連携の強化」「環境を考える（園庭）」「園庭を考える（公園）」3つあげて、各年齢ごとに保育の中で取り組み、グループ（クラス）会議の中で検討し、全体会議において「保育園全体ではどうか」を話し合い実行に移して取り組む。

（1）「連携の強化」

開園から閉園までの長時間を職員でつないでいくにあたり、複数の職員が保育に携わっていく中で、保育を「みえる化」し全体に伝えることを考える。グループ会議を昼間（午睡の時間中に設定）に行い、朝・日中・夕のすべての担当が参加し、クラスについての共有・会議等の伝達事項の確認しあえる時間を作る。

（2）「環境を考える（園庭）」

主任・副主任会議での全体の目標について、職員に全体周知、現在の園庭の改善点や子どもたちが遊び込めるどんな環境にしたいか。意見や各自が考えた理想図を募集。

職員全体会議で検討し環境整備開始

（3）「環境を考える（公園）」

公園に向かう道や・公園内の環境や遊具を子どもが使用するのに適しているかを実際に職員でグループに分かれて巡回して点検して、安全委員会でまとめ職員会議で報告し、お散歩の際の子どもへの安全配慮にいかす。

クラスの自己評価

（1）連携の強化

【0 歳児】

子どもの様子を朝・日中・夕の担当者で報告しあえたことで、保護者への引継ぎもより細かく行うことができた。またクラスの取り組みも、朝・夕の職員と話し合うことができ、連携がスムーズに取れるようになった。

【1 歳児】

保育のねらいや保育の取り組みで大切にしていること等を共有でき、一日のつながりを感じることができた。子どもたちのエピソードなど保育の話をできる有意義な時間だったのでよかった。

保育についての相談など話し合える時間にもなり、これをきっかけに連携をよりとれるように考えていきたい。

【2 歳児】

朝・日中・夕の子どもの姿を話すことで連携をより取れるようになった。

2 グループに分けて保育をしているが、担当を決めて保育をしている中で保育の質問されても答えることができていないことや、日中の保育の共有不足がわかり、改善にも努めることができた。

【3 歳児】
　保育を共有することで、より密に連携をとれるようになった。また課題をグループ会議で共有し保育に反映することができる強みを感じた。
【4 歳児】
　朝・日中・夕担当職員で顔を合わせてじっくりと話す機会をもててよかった。細かい伝達もできた。
【5 歳児】
　子どもについて話す時間が保育中は取れないにで。月に 1 回、大事な時間だった。
グループ会議だけでなく、日誌や引継ぎノートで情報を共有して連携を取り保育に繋げていくにことを確認し、より些細なことでも記録し引き継いでいく、引き継ノートの重要性も再確認した。

（2）環境を考える（園庭）（公園）
・職員間での園庭での遊びや遊ぶ際に特に注意をして見守るポイント等確認ができた。
子どもたちの「やりたい」を職員で話し合って、少しずつ園庭が変わっていく様子をワクワクしながら見守れ、子どもたちと一緒に過ごせることがうれしい。
「やらなきゃ」が「やろう」になっているので今後ももっと子どもたちが遊び込める園庭になるようにしていきたい。
・公園に散歩に行った際、改めて子どもたちの遊具の使い方を意識できる振り返りとなったのでよかった。
遊具の確認をして、あれもできない・これもできないと気になったが、遊具に関係なく子どもたちの力で遊びが広がることを感じた。

【まとめ】
正規・非正規職員の職員で、朝から夕まで保育をつなぐいでいくことに、伝達漏れや連携不足を感じることもあり、今年度グループ（クラス）会議に朝・日中夕の担当者（正規・非正規職員）全員が参加することで、保育の内容や保護者・子どものようすを密に情報共有し、それぞれ保育や子どもの話を月に 1 回ではあるが時間をとって話し合うことでお互いの保育の思いも伝わり、保育へ繋がっていると感じられた。
非正規の職員は時間を調整して会議に参加をしてもらったが、「大変」よりも会議から得られるものが多かったこともあり「よかった」の意見多く、朝から夕までの保育の連携の充実が見られる。
園庭の環境整備についても、取り組みの初期段階では消極的な職員も、自分たちが思い描く遊びの空間が具体化していくことで、子にも遊びやすい環境になり職員の「ダメダメ」が少なったとともに、保育者も子どもと一緒に遊び込める、楽しめる環境へと変化していった。
公園の遊具についても、遊具の使用年齢など確認することで、意識していなかったものが意識でき、今まで以上に園外での子どもの安全を職員間で共有することができた。
園庭や公園の環境についてもすべてが保育の連携に繋がり、こどものを中心とした保育へと繋がっていくことを改めて考えることができ、今後も継続して取り組んでいきたいと思う。